

輸出事業計画

※申請者名：えひめ愛フード推進機構、品目：かんきつ

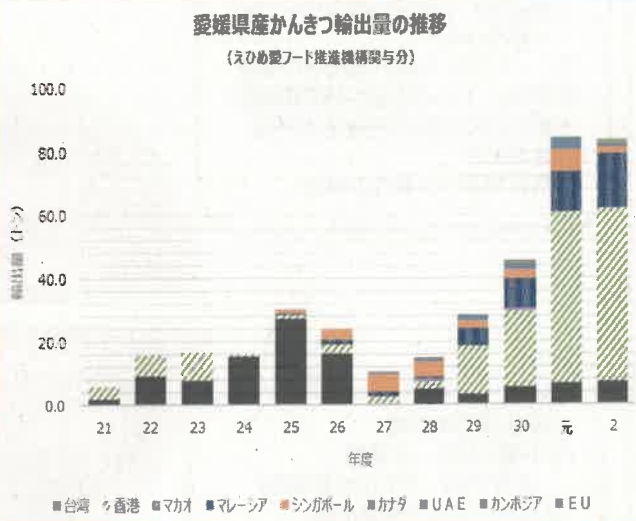
1. 輸出における現状と課題

【現状】

- うんしゅうみかん等の輸出量は、令和2年で、1,138tで増加傾向。（農林水産省国際部国際経済課「農林水産物輸出入概況 2020年（令和2年）」による）
- えひめ愛フード推進機構が関与した令和2年度の県産かんきつ輸出量は、83.5t。
- 令和2年度は、コロナ禍により、海外に渡航してのプロモーション活動や対面での営業ができない状況にあったことから、これまでの活動で構築したネットワークを活用して、台湾や香港、マレーシア等で、既存の販売店舗に加え、系列の店舗等への売り場拡大に取り組んだ結果、過去最高であった前年度（83.9t）並みの輸出量を確保。

【特徴・強み】

- かんきつ栽培が盛んな本県南予地域の「かんきつ農業システム」は、日本農業遺産に認定されており、急傾斜の段々畑等が特徴。
- 平均気温が16℃を超える温暖な気候に加えて、「太陽からの直射日光」「海面からの照り返し」「石積みからの反射光や輻射熱」の「3つの太陽」に恵まれるなど、良質なかんきつの生産に必要な条件が揃っている。
- 40種以上の品種を栽培しており、安定した周年供給体制を構築。
- 本県オリジナル品種（紅まどんな、甘平）を含めた中晩柑の各品種は、高品質かつ供給時期で他国産と差別化を図ることができる。

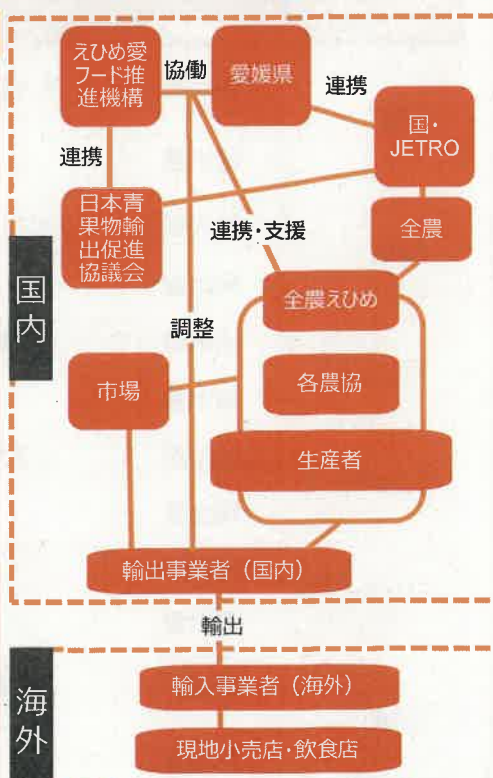


【課題】

- ① 輸出障壁（検疫条件、残留農薬規制）
- ② 輸出に取り組む生産者や産地の拡大
- ③ 商流の構築
- ④ 物流の効率化・高度化
- ⑤ マーケットイン・マーケットメイク
- ⑥ 商標の保護

2. 輸出事業計画の取組内容

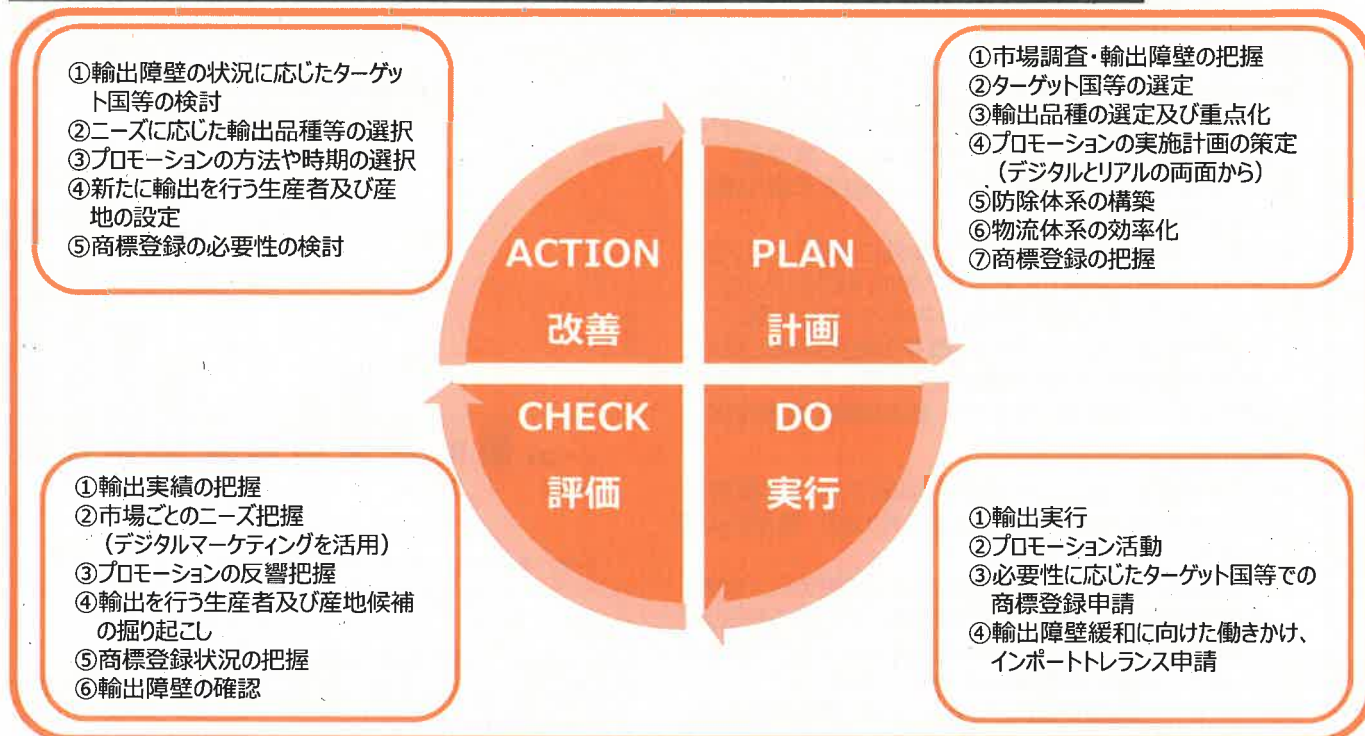
項目	対応策
① 輸出障壁	● 輸出障壁緩和に向けた働きかけ ● インポートトランス申請の加速化 ● ターゲット国等の規制に応じた防除体系の構築
② 生産者及び産地の拡大	● 検疫条件等に適合した産地の拡大及び生産者の育成 ● 現地ニーズや規制の情報提供
③ 商流の構築	● 現地プロモーション活動等を通じた継続的かつ戦略的な商流の構築 ● 輸出後のフィードバックを含めた一連のサプライチェーンに関するPDCAサイクルの構築
④ 物流効率化	● 効果的・効率的な保存及び輸送方法の確立 ● 腐敗果対策を目的とした輸送資材の改良など輸送コストと輸送ロスの低減の推進
⑤ マーケットイン・マーケットメイク	● 市場として有望な国・地域にターゲットを絞った上で、市場情報等の分析 ● ターゲット国等のニーズや規制に応じた品種の選定及び重点化 ● 市場ニーズに合った高付加価値の啓発活動
⑥ 商標保護	● 本県産かんきつ等のブランド保護



輸出事業計画

※申請者名：えひめ愛フード推進機構、品目：かんきつ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

国・地域名	項目	令和2年度	令和7年度	主な方策
合計	輸出額	43,412千円	150,000千円	
	輸出量	83.5t	200.0t	
台湾	輸出額	8,464千円	27,400千円	残留農薬基準に適合した産地、品種の拡大 重点品種：「うんしゅうみかん」「ハウスみかん」「紅まどな」「甘平」「せとか」「清見」「不知火」「河内晩柑」
	輸出量	7.1t	25.0t	
香港	輸出額	21,415千円	75,150千円	年間を通した周年供給の確立 重点品種：「うんしゅうみかん」「ハウスみかん」「紅まどな」「甘平」「せとか」「不知火」
	輸出量	54.9t	94.5t	
マレーシア	輸出額	9,955千円	11,935千円	中晩柑を中心としたブランド定着 重点品種：「うんしゅうみかん」「ハウスみかん」「紅まどな」「甘平」「せとか」
	輸出量	17.0t	20.5t	
シンガポール	輸出額	1,270千円	24,840千円	中晩柑を中心にクリスマス・春節需要への対応 重点品種：「紅まどな」「甘平」「せとか」
	輸出量	2.0t	31.0t	
EU・スイス等	輸出額	—	6,800千円	ブランド定着、検疫条件に対応した産地拡大 重点品種：「河内晩柑」「ゆず」
	輸出量	—	25.0t	
その他	輸出額	2,308千円	4,085千円	マカオ、カンボジア、カナダ等 ブランドの認知度向上、定着 ※新たに輸出に取り組む国・地域については、検疫条件等を勘案の上、輸出の可能性を検討
	輸出量	2.5t	4.0t	